

アカモズによるモズ幼鳥への給餌例

今西貞夫

和光大学人文学部人間関係学科浦本研究室 〒195 東京都町田市金井町2160

ある種が他種のヒナや幼鳥に給餌をする例は、Skutch (1961, 1976) によりまとめられており、それ以外にも報告がある(塚田 1953, 丸山 1966, 大浪 1972, 宮崎 1973, 風間 1974, Abraham 1978, 林 1978, Simms 1978, 生田 1989, Cockbain 1990, Hoffmann et al. 1991, Swindells 1994). 著者はカッコウ *Cuculus canorus* の調査を行なっている過程で、アカモズ *Lanius cristatus* がモズ *L. bucephalus* の幼鳥に給餌をしているのを観察したので報告する。

調査地は長野県南佐久郡南牧村野辺山 (35°57' N, 138 °28' E) で、この地域ではアカモズとモズは同じ環境に生息し、ほぼ同時期に繁殖している。

給餌を受けていた雌の幼鳥のモズ(モズR)は、1994年7月4日に巣N(図1)においてふ化後12日目にはかの4羽のヒナとともに番号のついた環境庁の足環(ナンバーリング)が装着された。この巣のヒナは3日後に巣立ったが、ヒナが巣立つ前にヒナの両親を捕獲し、ナンバーリングと個体識別用の色つきの足環(カラーリング)を装着した。

7月19日と20日に林に隣接したI(図1)にかすみ網を設置し、足環のついていないアカモズの家族を捕獲した。同時に巣立ち後14日目のモズRを再捕獲し(20日)、カラーリングを装着した。捕獲した雄の成鳥のアカモズ(アカモズG)にはナンバーリングとカラーリング、幼鳥のアカモズ3羽にはナンバーリングを装着した。幼鳥のアカモズは尾羽の伸び具合などからモズRとほぼ同じ年齢であると推測された。

7月19日と20日、アカモズGが幼鳥のアカモズに給餌していた。

7月21日、林縁のII(図1)でモズRがアカモズGに対して食物をねだる時に行なう翼を小刻みに動かす行動と鳴き声をだし、アカモズGより2回給餌を受けた。このアカモズGはナンバーリングのついた幼鳥のアカモズにも給餌をしていた。19~21日のあいだにこれらのアカモズとモズは、IIの林とIの周辺のエ縁とを往復していた。

7月22日、林縁のIII(図1)でナンバーリングのついた雄の幼鳥のモズ1羽とこのモズの近くで警戒するカラーリングのついた親鳥2羽を観察した。なお、この親鳥がいたIIIの林と子供であるモズRが給餌を受けていたIIの林との距離は約70mである。

7月30日、アカモズGが鱗翅目の幼虫をくわえてIV(図1)に行くと、すぐに食物をねだる鳴き声があり、そこにはモズRがいてアカモズGに引きつづいて餌ねだりをしていた。モズRが給餌をうけたかどうかは確認できなかったが、状況からすると給餌を受けたようである。その後、IIの木の枝先にとまっているアカモズGに対してモズRとナンバーリングのついた幼鳥のアカモズ1羽が体を接するようにしきりに餌ねだりをしたが、アカモズGは無視をした。アカモズGには足環の付いていない幼鳥のアカモズも餌ねだりをしていた。

1994年11月25日受理

キーワード: アカモズ, 種外給餌, モズ

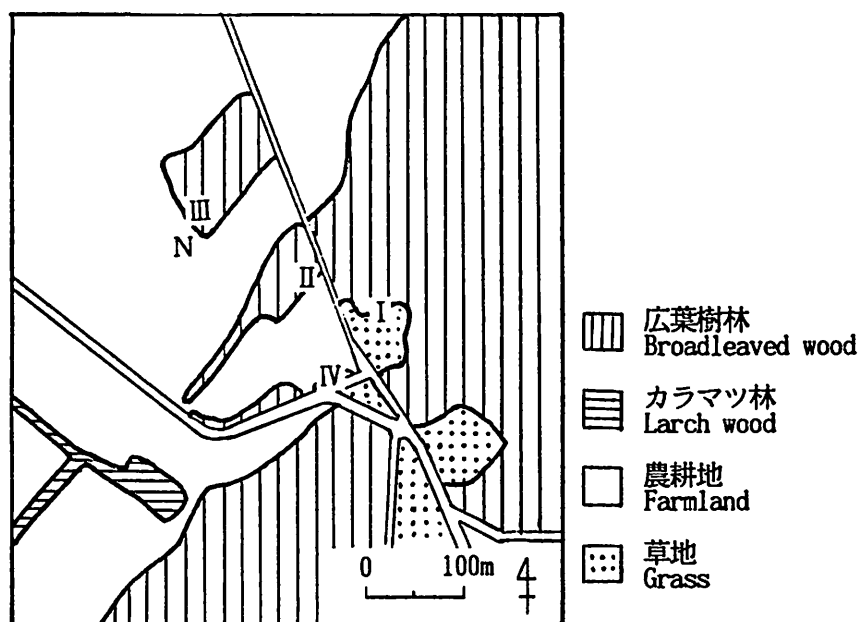


図1. アカモズによるモズ幼鳥への給餌が観察された地域。

N: モズの巣の位置, I: アカモズとモズが捕獲された場所, IIとIV: モズがアカモズから給餌をうけた, または餌ねだりをした場所, III: モズの両親がみられた場所

Fig. 1. The area where the Brown Shrike was found feeding the young Bull-headed Shrike.

N: Nest where the young Bull-headed Shrike hatched.

I: The place where the Brown Shrike family was captured and the young Bull-headed Shrike was recaptured.

II and IV: The places where the young Bull-headed Shrike was fed by and/or begged the Brown Shrike.

III: The place where the young Bull-headed Shrike parents were seen.

これらのことから、モズRはアカモズGの家族の一員として行動をともにしていたことがわかる。このようになった過程として、まずモズRが自分の家族がいた林から約70mも離れた林に移動してしまい両親からはぐれ、そこでよく似た年齢の親より給餌を受けている幼鳥を連れたアカモズの家族と出会い、餌ねだりをするとうまく食物をこの家族の親より与えられたので家族の一員となったと推測できる。

今回の例は近縁種間のものではあったが、似た例としてシロクロアメリカムシクイ *Mniotilta varia* のつがい、親からはぐれたカマドムシクイ *Seiurus aurocapillus* の巣立ちビナの世話をしていた例がある (Kendeigh 1945)。このような例からもモズとアカモズのように同所的に同時期に繁殖している近縁種間では、他種の幼鳥への給餌は稀でないように思われる。そして、このようにして育てられたヒナは、同種を同種として認識するのか、それとも育ての親である近縁種を同種として認識するのかという点が、異種間つがいの形成との関係に興味をもたれる。

最後に、文献の収集に協力していただいた山階鳥類研究所の茂田良光、平岡考、鶴見みや古、石本あゆみの各氏に感謝申し上げる。

引用文献

- Abraham, K.F. 1978. Adoption of Spectacled Eider ducklings by Arctic Loons. *Condor* 80 : 339 - 340.
- Cockbain, C. 1990. Wren feeding nestling Great Tits. *Brit. Birds* 83 : 440 - 401.
- 林大作. 1978. クマゲラの雛をムクドリが奪った. *アニマ* (60) : 48 - 53.
- Hoffmann, D., Hoffmann, U. & Rost, R. 1991. Gemeinsame Aufzucht von fünf jungen Tannenmeisen (*Parus ater*) durch Trauerschnäpper (*Ficedula hypoleuca*) und Tannenmeisen. *J. Orn.* 132 : 439 - 440.
- 生田実. 1989. シジュウカラとエナガの共同育雛. *Strix* 8 : 282 - 283.
- 風間辰夫. 1974. カワラヒワのひなを育てあげたスズメ夫婦. *野鳥* 39 : 521 - 522.
- Kendeigh, S.C. 1945. Nesting behavior of wood warblers. *Wilson Bull.* 57 : 145 - 164.
- 丸山直樹. 1966. シジュウカラの育雛を手伝うスズメ. *野鳥* 31 : 39.
- 宮崎学. 1973. アカゲラの育雛を手伝うヤマガラ. *野鳥* 38 : 153.
- 大浪文太郎. 1972. シジュウカラの育雛を手伝うゴジュウカラ. *野鳥* 37 : 200 - 201.
- Simms, E. 1978. *British thrushes*. Collins, London.
- Skutch, A.F. 1961. Helpers among birds. *Condor* 63 : 198 - 226.
- Skutch, A.F. 1976. *Parent birds and their young*. Univ. of Texas Press, Austin.
- Swindells, D.W. 1994. Spotted Flycatchers feeding young Wrens. *Brit. Birds* 87 : 91 - 92.
- 塚田貞雄. 1953. 巣箱のシジュウカラに餌を運ぶスズメ. *野鳥* 18 : 186 - 187.

A Brown Shrike feeding a young Bull-headed Shrike

Sadao Imanishi

*Laboratory of Uramoto, Department of Human Science, Faculty of Humanities,
Wako University, Kanaichou 2160, Machida, Tokyo 195*

An adult male Brown Shrike *Lanius cristatus* was observed feeding a young female Bull-headed Shrike *L. bucephalus* which had fledged 15 days previously, at Nobeyama plateau in Nagano Prefecture on July 21, 1994. The male was also feeding its own young which were of similar age. Both young were observed begging the male on July 30. It seemed that the young Bull-headed Shrike lost its way to its parents. The parents and the family of the young Bull-headed Shrike were found in a grove about 70m away from the grove where the Brown Shrike family was staying on July 22.

Key words: extra-species feeding, Lanius bucephalus, L. cristatus.